

令和5年12月13日

秩父市議会議長 堀 口 義 正 様

まちづくり委員長 大 久 保 進

まちづくり委員会行政視察報告書

- 1 期 日 令和5年10月3日（火）～5日（木）
- 2 視察先 岡山県岡山県庁、大阪府堺市、愛知県豊田市
- 3 参加者 委員長 大久保進 副委員長 木村隆彦
 委員 黒澤秀之 委員 小松穂波
 委員 坂本勝幸 委員 高野 宏
- 4 視察目的

岡山県岡山県庁 「第74回全国植樹祭岡山2024」

○ 岡山県の概要

岡山県は、日本の中国地方に位置する県。県庁所在地は岡山市。県庁所在地の岡山市は2009年（平成21年）4月1日全国で18番目の政令指定都市に移行した。山陽本線、山陽新幹線、中国自動車道、1997年（平成9年）に全線開通した山陽自動車道をはじめとして西日本の交通の大動脈が県を横断している。本州と四国を結ぶ瀬戸大橋も1988年（昭和63年）に開通した。

県内を南北に流れる3つの一級河川（高梁川・旭川・吉井川）による潤沢な水源、温暖で長い日照時間、江戸時代から昭和戦後期にかけて瀬戸内海の大規模な干拓で広い農地が形成されたことから、水稻や麦、果樹の生産が盛んである。特に白桃、マスカット・オブ・アレキサンドリア、ピオーネなどは生産量日本一であり、品質の高さから国内外に向けて高値で出荷されている。県北の標高1,200メートルに位置する蒜山高原では、ジャージー牛の大規模な放牧が行われており、チーズ、ヨーグルト、アイスクリームなどに加工されている。

県庁所在地における快晴日数の多さや降水量1ミリ未満の日数が全国最多であることから、1989年（平成元年）から「晴れの国 おかやま」を県のキャッチフレーズとしている。

○ 事業の概要

「1年前イベント」について、岡山市が毎年開催している既存の緑化イベント「百花彩」と併催するなど、なるべく新規の投資を避け、かつ、相互にメリットがあるような事業形態に取り組んでいる。岡山県から岡山市へ、市長の式典・イベントにおける挨拶や実行委員会副会長への就任、1年前イベントの共催、カウントダウンボードの設置やコンベンションセンター、パンフレット提供等の依頼を行っている。



大阪府堺市 「Park-PFI を活用した大蓮公園の整備事業」

○ 市の概要

堺市は、大阪府の泉北地域にある政令指定都市。府内では大阪市に次いで人口が多い。大阪府による地域区分では泉北地域とされるが、市制施行時の堺市域や南河内郡の旧郡域など歴史的に泉北郡ではなかった地域が多く含まれており、他の泉北地域3市1町とは区別されることもある。大阪府内で人口・面積ともに大阪市に次いで第2の都市であるが、政令指定都市の中で比較すると面積は神奈川県川崎市に次いで2番目に小さい。人口は2022年1月1日時点で佐賀県・山梨県・福井県・徳島県・高知県・島根県・鳥取県を上回る。

○ 事業の概要

Park-PFI 制度を利用した「大蓮公園及び旧泉北すえむら資料館管理運営事業」で、このプロジェクトに参加している各施設とともに、より良い公園にするために活動している。

地域住民を主体とした幅広い世代が活用できる公園空間を生み出し、旧泉北すえむら資料館や自然を活かす形で次世代にとっての「OUR HOME PARK (ふるさとの公園)」を創造している。



愛知県豊田市 「とよたエコフルタウン」

○ 市の概要

豊田市は、愛知県北部の三河地方に位置する都市。中核市・中枢中核都市に指定されている。世界最大級の自動車メーカー・トヨタ自動車の企業城下町であり、市名は同社に因む。日本最大の工業地域である中京工業地帯の中核的な都市であり、2019年の製造品出荷額は15兆3570億円で全国第1位と、日本を代表する工業都市である。1937年に愛知県刈谷市に本社を置く豊田自動織機製作所（現・豊田自動織機）が同社の自動車部門を独立させて、当時の挙母町にトヨタ自動車工業（現・トヨタ自動車）の工場を設立したのが豊田市の工業化の始まりである。

人口は愛知県で名古屋市に次ぐ2位であり、面積は県内で最も広い。愛知県で一番初めに中核市として指定されている。隣接している岡崎市とともに西三河地区での中核都市である。

毎年7月最後の週の日曜日に開催される豊田おいでんまつり花火大会は、全国の有名花火師が打ち上げるため、毎年約40万人が訪れる。

○ 事業の概要

持続可能な「豊かな暮らし」を目指す豊田市は、10年先、50年先を見据えた新たな取り組みに力を注いでいる。その事例を体感できる施設が「とよたエコフルタウン」である。市民、地域、先進技術、自然、さまざまなものがつながり、それぞれの魅力を活かし合って豊かなまちづくりを目指している。

豊田市は「都市」と「山村」が共存し、さまざまな人、地域、企業、技術にあふれている。その一つひとつの力をつなぎ、「エネルギー」「モビリティ」「ウェルネス」を重点に、SDGs達成に向けた取り組みを広げている。



【 まちづくり委員会行政視察に参加して 大久保進 】

まちづくり委員会として、来年度行われる全国植樹祭の1年前イベントの内容、県、市の役割、本番の天皇陛下、皇后陛下お手植えの樹種、式典会場、サテライト会場や広報イベント各種作成内容などを岡山県に訪問し確認した。次に大阪府堺市に訪問し、Park-PFI制度を活用した「大蓮公園」くらしテラスは地域住民の住まいや暮らしのサポート拠点として、公園プロジェクトの総合案内所として機能している。公園内の施設は公園キャンプ・カフェ・BBQ・私設図書館など、自分に合った公園利用をデザインするコンセプトに色々な施設が誕生した。また、公園の一角では不定期だが物販のお店がオープンする。私設図書館では、「みんなの本棚を、公園に」をコンセプトに市民が本を持ち寄って運営しており、分野別にコーナーが出来ている。また、読み聞かせ等も行っている。夜6時までには自由に使用出来るようになってる。施設の中には小さな子どもと一緒に遊べるスペースも用意されていた。屋外にはデコボコバイクパークというキックバイクでも走れる自転車専用の土製コースがあり、公園内を整備した時にでた残土を利用したものであった。市において整備したのは約20台収容の駐車場である。秩父市においても同じような事が出来るよう模索していきたい。最後に愛知県豊田市を訪問してエコフルタウン視察し、さまざまな先進技術及び施設を見て思った事は、この取り組みが秩父市においてどこまで可能性があるのか研究して行かなくてはと思った。残念ながらエコフルタウンは今年度末で役目を終えるとのことであった。

【 とよたecofultownを視察して 木村隆彦 】

豊田市では、温室効果ガス削減等地球温暖化問題に高い目標を掲げている。脱炭素社会の実現に向けて先駆的な取組にチャレンジ・社会システム実証地域として国から環境モデル都市として選定された。また、次世代エネルギー・モビリティの創造特区に指定され、低炭素な都市環境の構築を目指している。今回、訪問した「とよたecofultown」では未来につながる社会の実現に向けて平成24年に開館され、平成31年にリニューアルオープンし、持続可能な社会の実現に向けた取組を体験できる施設へ生まれ変わった。施設周辺には車と繋がるスマートハウスや、水素製造装置を備えFCV車30台分に供給できる水素ステーション、水素を燃料とする車「ミライ」の展示もあった。この車は現在750万円程度で販売され1回のフル充填で850Kmの走行が可能だそう。充填時間も3分程度で完了するようだ。電気自動車に比べ充電時間が短縮されている。しかし、水素ステーションの設置が進んでいない。今後の設置にはまだまだ時間がかかりそうだ。その他、超小型電気自動車の「コムス」や歩道での走行に対応した三輪タイプの超小型モビリティの「コモビ」等、未来に向けたモビリティが開発されていた。これらの技術が活躍するには使用用途に合わせた地域づくりが必要と感じる。今後、地方の自治体として脱炭素に向けて取り組みが進んでいくと思うが、地域にあった方向性を見据えた取組が必要になると考える。秩父市も将来に向けた選択が求められると感じた。「とよたecofultown」では求めた未来が実際に動き始めているため、来年3月で閉館されるようだ。

【 まちづくり委員会行政視察を終えて 黒澤秀之 】

まちづくり委員会として、第74回全国植樹祭開催自治体における事前準備状況の確認、都市公園における民間活力の活用、持続可能なSDGs未来都市など、それぞれの先進自治体として岡山県岡山市、大阪府堺市、愛知県豊田市の行政視察を行った。第74回全国植樹祭については、主催者である県（岡山県）と開催地である岡山市のすみ分けについて参考になった。式典（前後含む）に伴う諸事業の予算については、当市としても相当額の歳費が必要となることから、予算上の準備を早めに行わなければならないと感じた。都市公園における民間活力の活用においては、視察地である大蓮公園を取り巻く地域の環境と当市における都市公園（秩父ミュージックパーク他）の立地条件は異なるものの、民間活力をどのように活用すべきかの点について参考になるものが多かった。また、民間企業と地元住民における諸団体をうまく活用する方法を当市としても模索する必要があると強く感じた。持続可能なSDGs未来都市（とよたエコフルタウン）においては、中心市街地にあった病院跡地の再利用から発展した事業であるが、当年度で一定の効果が達成できたことと新たな未来都市への転換点となる時期であることから廃止になるようであるが、当市においてもドローン等を活用した内閣府の補助事業等を行っており、それらを持続的に活用することによって、新たな取り組みを民間企業との協業により実施できるのではないかと感じた。人口減少に伴う歳入の減少を民間活力の活用によって補う方法をどの自治体も検討しており、当市においても行政一辺倒にならない仕組みを構築すべきと強く感じる行政視察となった。

【 先進自治体（事例）に学ぶ 小松穂波 】

今回初日に視察した岡山県は「第74回全国植樹祭」の開催地であり、来年令和6年の開催に向け準備を進めている先進自治体である。

埼玉県がイニシアチブを取り開催される「第75回全国植樹祭埼玉2025」だが、開催市の議会の立場から理解を深めるべく視察を行った。天皇皇后両陛下も参加されるこの植樹祭にあたり、国からの補助で道路や施設の整備が進むのではないかと期待している関係者も少なくないと思われるが、このような整備は県や市町村の持ち出しとなり、国庫補助は運営に当たる費用の一部との説明があった。市議会としても今後当局と情報共有を密に、大会成功に向け協議する必要性を強く感じた視察であった。

2日目、3日目は、各委員会に分かれての視察となり、まちづくり委員会では、大阪府堺市の「Park-PFIを活用した大蓮公園の整備事業」と、愛知県豊田市の「とよたエコフルタウン」の視察を行った。「Park-PFI」とは、公園に施設を設置して運営する民間事業者を公募により選定する制度であり、今後の秩父市の公園施設の維持管理に民間の優良な投資を誘導し財政負担を軽減しつつ公園の質や利便性を向上できないかの視点からの視察であった。また豊田市は「ミライのフツー」をつくる先進技術が体験出来る「とよたエコフルタウン」の運営を行っており、パビリオンや水素ステーションなども有している。

いずれの自治体も財政規模の違いはあれ、時代にあった柔軟な行政運営を行っており、先を見る目を養う必要を強く感じる視察となった。

【 まちづくり委員会行政視察を終えて 坂本 勝 幸 】

10月3日から5日までの3日間でまちづくり委員会の行政視察が行われた。1日目は、来年、令和6年5月26日に第74回全国植樹祭が行われる岡山県を視察し、植樹祭の準備概要の視察を行った。岡山県では、来年の全国植樹祭開催に先立ち、本開催の準備として、本年5月に1年前祭が開催された。岡山県では、昭和42年の第18回全国植樹祭の開催に次いで57年ぶり2回目の開催となる。前回の開催時には当日大雨による悪天候だったことを考慮して屋内会場を選択、会場の選定には既存施設の活用、経費節減、面積、なおかつ新幹線停車駅の至近であることを考慮してジップアリーナ岡山が式典開催会場となった。式典開催規模にあっては、県外招待者950名、県内招待者900名の2,000人弱にて開催予定である。式典会場での天皇陛下お手植え樹種は、アカマツ（抵抗性）・ヒノキ（小花粉）・スギ（小花粉）の県を代表する有用な樹木3種を選定しているとのことである。現在植樹祭の開催機運を高めるために、PRを兼ね全国植樹祭のシンボルである木製地球儀が岡山県内の各市町村を1週間ずつ、くまなく巡回展示中である。また、岡山県庁内にカウンタダウンボードを作成し展示している。植樹祭開催後には、アフター地域植樹を併催する予定である。また、開催会場で使用した木製品は、岡山空港にて再利用される予定となっている。秩父市でも既存の施設を有効活用して植樹祭の開催が出来ればと感じた。2日目は大阪府堺市の大蓮公園の整備事業について、3日目は、愛知県豊田市のとよたエコフルタウンを視察し、今回の行政視察を終えた。

【 まちづくり委員会行政視察報告 高野 宏 】

5年ぶりに行われた、まちづくり委員会行政視察は、岡山県庁の「第74回全国植樹祭」、大阪府堺市の「Park-PFIを活用した大蓮公園の整備事業」、愛知県豊田市の「とよたエコフルタウン」の1県2市を訪問し、先進事例や施策、事業の進捗状況、成果等について研修を受けた。

第1日目の10月3日は、岡山県庁を訪問し、来年岡山県で開催される「第74回全国植樹祭」の説明を受けた。1日目は3委員会合同で視察を行い、植樹祭の概要、予算、スケジュールについて・各種イベントについて・県と市の役割分担について・植樹祭開催後の計画について・市議会の関りについて等の説明を受け、議員からも多くの質問が出て、詳細な説明をいただき参考になる研修となった。

2日目10月4日は、大阪府堺市を訪問し、「Park-PFIを活用した大蓮公園の整備事業」について研修を受けた。この地域は、大阪府内最大の泉北ニュータウンにあり、大阪都心から鉄道で30分と立地が良い場所である。この、大蓮公園の整備事業にPark-PFI制度を導入する経緯等の概要や民間事業者の選定、住民や利用者の意見・要望、事業の成果等の詳細な説明を受け、現地公園の視察も行った。3日目10月5日は、愛知県豊田市の「とよたエコフルタウン」を見学した。エコフルタウンの概要や、タウン内の建物・住宅、交通システム、秩父市でも注目している水素自動車等の先進技術、自然環境とのつながりなどの説明を受けた。今後の秩父市のまちづくりにも大変参考になる研修視察であった。